



で見劣りがした。そんなある日、彼は銀座の結城画廊で、先住者たちと出会う。

二巻では、後の主人公安西雄介が登場する。彼は、日本を操る影の政府、葛城財団のカミンスキー少佐から、古きものたち(クトゥールの神々)の侵略を聞かされる。

三巻では、**「翼の民」**の女王、白鳥夏姫が登場する。安西雄介は北斗多一郎(実は**「蛇」**みづちの民の若長)との取引を断わり、後の対立の火種をつくる。この巻では加賀四郎(天才科学者)も登場し、先住者の秘密について語る。クトゥールによる東京侵攻がはじまる。一方、はみだし者の集団、安西軍団がはじめて姿を見せる。

四巻では、**「風太の噂」**(涼らと離散)を追って、パレスチナに飛んだ安西らは、途中砂漠に逃れ、放浪の後、また多一郎につかまる。ようやく脱出した砂漠の上を、クトゥールの神々が飛来していく……。

五巻は、独立したエピソードである。中国入エスパー呉秀英は、異次元の空間に迷いこむ。そこには魚人間たちが一杯にあふれた村があった。彼は呼びかける声に従って西に向かい、そこで安西雄介ら一行と出会う。

六巻では、ルボライター生島耕平が登場。奇病ランドシンドロームを追って北斗化学の研究所に潜入、大江山博士(実は鬼の一族)から、この症候は実は病気でなくクトゥールの侵攻なのだと聞かされる。一方、アメリカでは人類防衛計画X、Y、Zプロジェクト

(核、地球脱出)が進められていた。

七巻では、クトゥール東京侵攻に伴う大地震が発生、東京の半分が壊滅する。夏姫と耕平は激しい恋に陥るが、このとき耕平はランド症に感染していた。一方、雄介は自分が単なる人間ではなく、禍津神(例えばスサノオ)と知らされる。

八巻では、サイココントロールを受け、侵略に全く気付かない都民たちと、変質していく東京のありさまが描かれる。雄介らは葛城軍団のカミンスキーらと再会、軍団の指揮権を与えられる。

九巻では、耕平と夏姫の死と、多一郎、藤原華子(「地這いの民」の姫)との婚姻が描かれる。そして、妖怪大集合の会が行なわれるが、彼ら先住者間の対立は激しい。

十巻では、東京でクトゥールに支配された自衛隊によるクーデターが発生。伊吹涼も死ぬ(?)。またXプロジェクトによる核ミサイルが日本に向けて放たれる……。

十一巻では、エスパー呉秀英が倒れる。しかし、この巻で安西らは**「人類軍」**を組織し戦いを開始。そして、不思議な巻物があらわれ、そこには百八人の妖怪・人間の名が書かれていた(三人分は空白)。かくして英雄が打ち揃い、**「水滸伝」**は開幕するのである。

というところで、曲折を経ながら、なるほどイントロダクションは終わったようである。執拗な描写の多さがいくつも見られるが、概してストーリー快調である。

(後)